

世界の主要拠点 (平成26年9月30日現在)



Sodick
株式会社 ソディック

〒224-8522
横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
TEL: 045-942-3111
FAX: 045-943-5835
(証券コード: 6143)

国内

本社	横浜					
営業拠点	仙台 静岡	大宮 名古屋	八王子 大阪	横浜 岡山	福井 福岡	松本
事業所	福井	加賀	白山	宮崎		

ホームページのご案内

<http://www.sodick.co.jp/>

株主の皆様からの声をお待ちしております。
当社は、株主の皆様からのご意見・ご質問をお受けしております。
お気軽に下記のメールアドレスまでお寄せください。

メールアドレス ir@sodick.co.jp



株式会社 ソディック

第39期 第2四半期

事業報告書

平成26年4月1日～平成26年9月30日

Business Report

Sodick





Sodick Corporate Highlights

“ワンストップ ソリューション” リニアモータ駆動 金属3Dプリンタ「OPM250L」

プラスチック成形品の金型製造に金属3Dプリンタを応用した場合、金型内部への三次元冷却配管や幅の狭い深リブを配置できるなど従来では加工できない複雑な金型づくりが可能となります。しかし、金属3Dプリンタの高いパフォーマンスを発揮するためには、CAD/CAE、CAM、実際に金型を造形する金属3Dプリンタ、プラスチック成形品を製造する射出成形機など製造工程全てが高い協調性をもつ必要があります。「OPM250L」は、金属3Dプリンタによるものづくりの全工程がソディックグループの技術で完結可能な、業界初の“ワンストップ ソリューション”を提供いたします。(販売価格6,500万円、60台/年(5台/月)生産・販売予定)



IMTS2014、JIMTOF2014に出展

ソディックグループは、IMTS2014(9月8日～9月13日、米国シカゴにて開催)、JIMTOF2014(10月30日～11月4日、東京ビッグサイトにて開催)に出展しました。米国のIMTS、日本のJIMTOFはともに世界最大級の工作機械の見本市です。JIMTOFでは、7月の開発発表時点で大きな話題となった金属3Dプリンタ「OPM250L」の実機を公開いたしました。ソディックブースには、OPM250L目当てのお客様も多く来られ、大変高い注目を集め、多くの引き合いをいただきました。



CONTENTS	Sodick Corporate Highlights.....	1
	株主の皆様へ.....	2
	グローバルネットワークとセグメント別概況.....	3-4
	特集 生活を支えるソディックブランド.....	5-6

当第2四半期(累積)の業績.....	7
当第2四半期(累積)連結財務諸表(要旨).....	8
株式情報・会社情報.....	9
株主メモ.....	10

未来を創る

代表取締役社長 金子 雄二



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当上半期のものづくりの世界を見てみますと、自動車やエネルギー分野を中心に好調を維持した米国や、緩やかな回復が継続した欧州地域、スマートフォン向けの需要が好調だった中華圏、消費税増税前の駆け込み需要の反動減から抜け出し、政府の設備投資への補助金効果もあり回復基調だった日本国内と総じて良い環境でした。ウクライナ情勢の深刻化、中東問題、エボラ出血熱の拡大など不安材料はございますが、今のところ事業環境は順調に推移したと考えております。

当上半期においては、次の世代のものづくりを見据えた画期的な製品が発表できました。10月30日から開催された世界最大級の国際工作機械見本市であるJIMTOF2014にて受注を開始した、3D金属粉末複合加工機「OPM250L」がそうです。3Dプリンタという言葉は皆様も耳にされたことはあるかと存じますが、OPM250Lは多種ある3Dプリンタのなかでも金属粉末を使用する金属3Dプリンタになります。3D金属粉末加工は、注目されていますが、まだまだ市場では実用化の例が不足していて、ユーザーによる試行錯誤が行われている段階です。ものづくりの現場では、

未知の技術やそれを応用した工作機械の将来性に興味はあっても、その未知性ゆえに実際に設備することは躊躇されているというのが実情です。

当社はユーザーが新たな技術に対して感じた将来性を実際の設備につなげるためには、ユーザーが安心して導入できる環境づくりが必要だと考えました。そこで当社が提案したのが“ワンストップソリューション”です。当社はOPM250Lの主な用途として、従来の製造方法では困難であった高付加価値の金型の製作を挙げていますが、金型の設計製作に必要な周辺機器・設備であるCAMから、放電加工機、射出成形機まで全て自前でサポートできる体制を準備いたしました。この体制を構築できるのは、放電加工機の開発を通じて数々の独自技術を培ってきたソディックグループだけです。まさしく“ものづくりのソディック”ならではの提案ができたのではないかと自負しております。OPM250Lの業績への貢献は今期はまだ大きくはございませんが、来期、再来期、さらにその翌期とどんどん大きくなっていくことと期待しております。

ソディックの経営理念である「創造」「実行」「苦勞・克服」の信念の下、社業の発展のため精励してまいります。株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

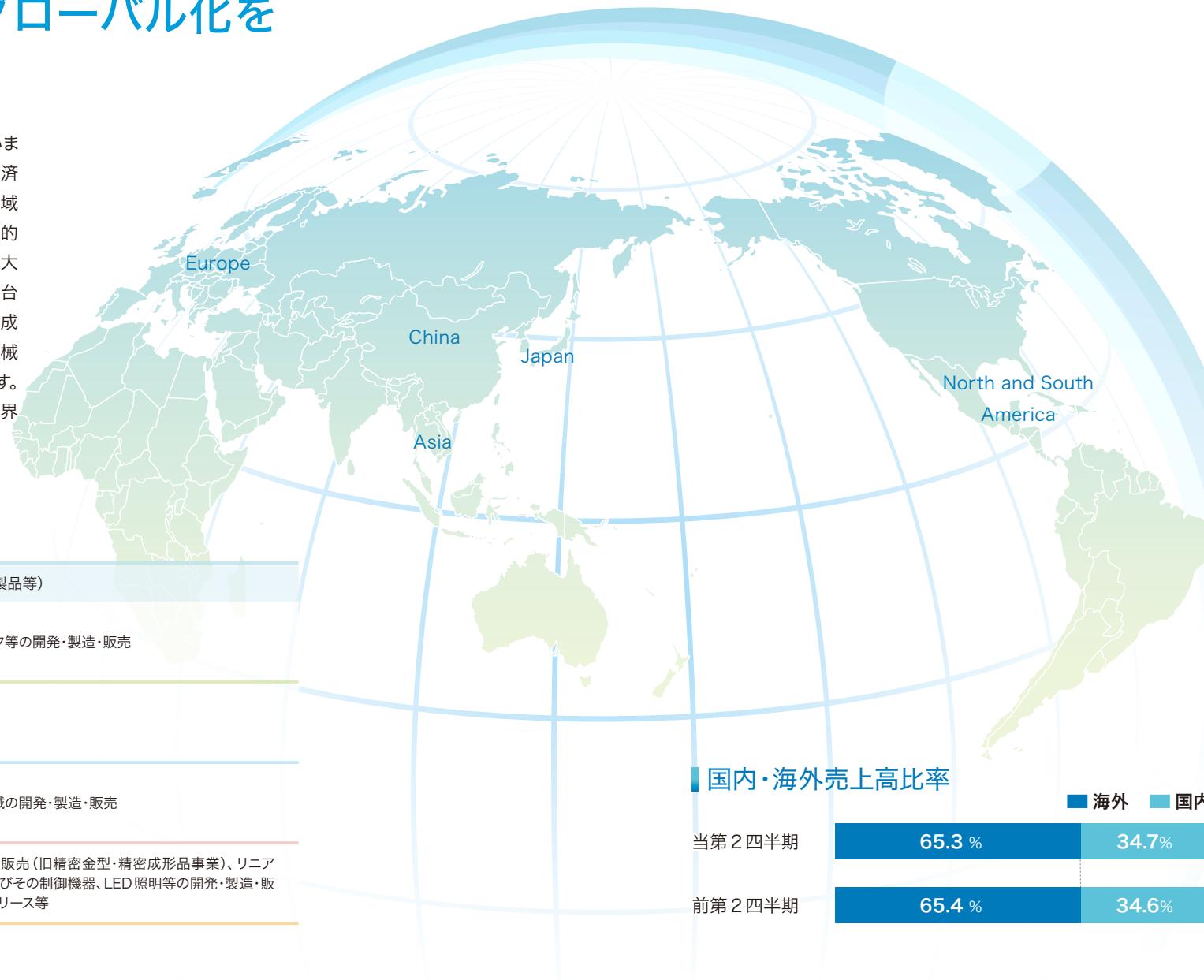
配当について

当社は大切な資本をお預かりさせていただいた株主の皆様に対し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続的な配当を実施することを基本方針としています。そこで株主の皆様に対する利益還元は、当該年度の業績や資金収支などを総合的に判断して行うこととしており、株主資本配当率(DOE)2%以上を目標として考えております。

平成27年3月期の利益配分につきましては、基本方針と収益状況から判断し、第2四半期末配当を1株当たり7円といたします。なお、期末配当は1株当たり7円とし、第2四半期末配当金を含め、年間配当金は1株当たり14円とする予定です。

世界中のものづくりを支えるために、 開発、生産、販売拠点のグローバル化を 促進しています。

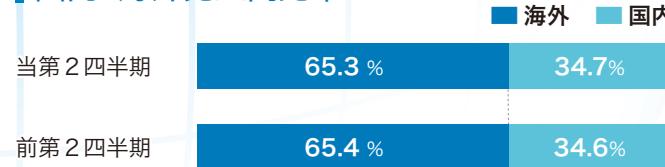
グローバル化の加速に伴い、海外売上高は拡大しています。当社グループは、日本や欧米などの先進工業国だけでなく、経済成長著しい新興国にも進出しています。その新興市場の代表的地域で先進工業国となりつつある中国では、1990年代の初頭より積極的にビジネスを展開しており、中国経済の成長に伴い当社グループは大きな成果をあげております。同地域における販売・サービス網は、台湾を含めた中華圏に26ヶ所設置された営業・サービス拠点で構成されており、この充実したネットワークにより、お客様が安心して機械をお使いになれるきめ細やかなサービス提供が可能になっています。今後はインド、東南アジア及びブラジルなど新市場にも注力し、世界中の「ものづくり」に一層貢献してまいります。



セグメント (第38期より変更)

セグメント	セグメントの概要(事業内容・主要製品等)
工作機械事業	放電加工機ならびにマシニングセンタ等の開発・製造・販売
産業機械事業	射出成形機等の開発・製造・販売
食品機械事業	麺製造プラント、製麺機等の食品機械の開発・製造・販売
その他	プラスチック成形品等の開発・製造・販売(旧精密金型・精密成形品事業)、リニアモータ応用製品・セラミックス製品及びその制御機器、LED照明等の開発・製造・販売(旧要素技術事業)、放電加工機のリース等

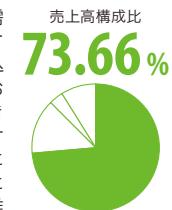
国内・海外売上高比率



セグメント別概況

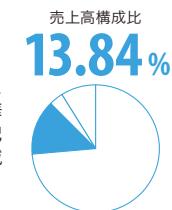
工作機械事業

国内の設備投資需要は、自動車関連やスマートフォン関連需要が好調を維持したほか、震災対策やオリンピックに向けて住宅関連向けの需要も見られ、期初の消費税増税前の駆け込み需要の反動も解消し、回復基調で推移しました。海外においては、北米地区では航空機向けや医療関連需要が引き続き堅調だったほか、日系自動車メーカーの新工場建設に伴うサプライヤーの進出により引き合いも増加傾向にあり、9月にシカゴにおいて開催されたIMTS(国際工作機械見本市)においても当社ブースは活況を呈すなど、良好な需要環境で推移しました。中華圏においても、春節を機に設備投資需要は回復しており、自動車関連やスマートフォン関連向けが好調に推移しました。一方、当第1四半期まで順調だったロシアでは、ウクライナ情勢の影響により先行きに不透明感が漂い始めたほか、アジア地域の主要な市場であるタイにおいてもパーツ高による輸出量減少の影響により設備投資需要は弱含みで推移しました。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比13億92百万円増(7.3%増)の205億33百万円となりました。



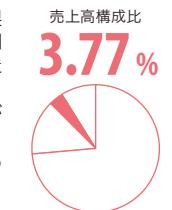
産業機械事業

射出成形機の設備投資需要は、国内市場では自動車関連、スマートフォン関連向けが引き続き好調を維持したほか、中華圏の需要も前期の需要減の影響を脱しつつあります。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比5億12百万円減(11.7%減)の38億58百万円となりました。



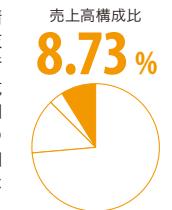
食品機械事業

食品機械事業は、各種製麺機、麺製造プラントなどの開発・製造を行っております。当事業の主要市場は国内ですが、中国においては常温で長期保存可能なロングライフ種の製造設備の引き合いが増加するなど市場が拡大しております。なお、当期においては下半期に検収が予定されている案件が多く、それに伴い売上も増加する見込みです。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比4億96百万円減(32.1%減)の10億52百万円となりました。



その他

その他は、精密コネクタなどの受注生産を行う精密金型・精密成形事業、リニアモータやセラミックス部材など独自の技術を活かした製品及びLED照明機器の開発・製造販売を行う要素技術事業、放電加工機、マシニングセンタ及び射出成形機などのリース事業から構成されております。当第2四半期連結累計期間においては、セラミックス部材、モータの外販が好調でした。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比4億81百万円増(24.7%増)の24億33百万円となりました。



生活を支えるソディックブランド

—平成27年3月期の方針と目標—

ソディックグループは、省エネ・安全安心・エコの「未来を創る」、先端技術で新たな「未来を創る」、希望に満ちた「未来を創る」など様々な「未来創り」に合わせた製品づくりを行うことにより、社会に貢献できる企業を目指します。



5つの重点方針

- 1 ブランド力の強化** ソディックブランドの意識向上を図っていきます
- 2 国内外のバランス** グローバル化の推進と国内回帰のバランスを考えます
- 3 次世代の技術育成** 生産・技術開発のノウハウの見える化に努め、若い世代への継承を進めます
- 4 グローバル人材の育成** グローバルに活躍できる若い人材の育成を進めます
- 5 新技術分野の開拓** 新しい技術分野を積極的に取り込みます

工作機械事業

放電加工機のマーケットシェアを世界全地域で**40%**以上へ

工作機械事業では主に放電加工機の開発・製造・販売を行っています。ソディックグループの放電加工機は、これまで自動車関連業界およびスマートフォンやデジタルカメラ、フラットパネルディスプレイなどに代表されるエレクトロニクス関連業界など、幅広い分野で高い評価を獲得し、欧米メーカーを凌ぐ世界のトップメーカーに成長しています。ここに新たにCorporate Highlights (P.1)にてご紹介した金属3Dプリンタ「OPM250L」が加わりました。



金属3Dプリンタ OPM250L



リニアモーター駆動高速・高性能ワイヤ放電加工機 SL600P

産業機械事業

射出成形機の国内外での販売数量増と海外売上を伸ばして海外売上比率**70%**へ

成形機事業部では、プラスチックなどの資源の有効活用と、環境への思いやりを配慮した射出成形機の製造販売を手掛けております。プラスチック部品は、その軽量性や多機能性から、私たちの身近な一般消費材である電気、電子、自動車、医療など様々な製品に採用されています。

海外売上比率目標 **70%**



V-LINE 横型射出成形機 GL60

食品機械事業

安全、安心で健康なおいしい食文化の創造

食品機械事業では、製麺機、ゆで麺プラントなど600機種以上の食品機械ラインナップの中からコンビニやスーパーなどで売られているうどん、そば、ラーメンなどを製造するのに最適な1台をお客様へご提案しています。安全、安心で健康なおいしい食文化を創造していくことにも貢献しているのです。



エクストルーダー：麺生地をスクリュウで押し出しながら真空引きし、脱気、高弾力の麺生地を作り出す装置



綾織り装置：麺帯を折り重ね、90度反転させて連続圧延しコシの強い麺帯が製造可能

その他

放電加工機の研究開発から生まれたソディック独自の技術を活かした多彩な事業

精密コネクタなどの受注生産を行う精密金型・精密成形事業、リニアモータやセラミックス部材など独自の技術を活かした製品及びLED照明機器の開発・製造販売を行う要素技術事業、放電加工機、マシニングセンタ及び射出成形機などのリース事業も行っています。



自社開発の技術を活かした製品群



LED大光量単一光源型投光器

LED大光量単一光源型 投光器 PIKA series 消費電力約

100m先で新聞が読める

消費電力 360W

家庭用 100Vで使えます

HID*ランプと同等以上の明るさで

1/4

※HID…High-Intensity Discharge

当第2四半期の概況

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、米国は雇用環境の改善による景気回復傾向が継続しましたが、欧州は回復基調が継続する国々がある一方、ドイツやフランスがマイナス成長になるなど国ごとに異なる状況が見られ、ウクライナ情勢への懸念もあり先行きに不透明感が漂い始めました。中国は成長率は鈍化しているものの、安定成長を続け、設備投資は順調に推移しております。このような経済環境を反映し、為替相場では対円でドル高ユーロ安が進行することとなりました。

わが国経済におきましては、4月の消費税率引き上げや夏期の天候不順の影響により個人消費を中心に弱含んでいましたが、政府の経済対策を背景に企業の設備投資、雇用環境や所得が改善し、総じて底堅い回復が続いております。

このような事業環境のなか、主要事業である工作機械事業、産業機械事業ではスマートフォン向けの需要が好調を維持したほか、政府の生産性向上設備投資促進税制などの効果も見られました。米国政府の製造業国内回帰政策により自動車産業を中心に好調な米国市場では、9月にシカゴにおいて開催されたIMTS（国際工作機械見本市）に当社グループも出展し、活発な営業活動を展開いたしました。また、次世代の生産技術として近年注目されている金属3Dプリンタの「OPM250L」を開発し、発表いたしました。金型への応用など精密部品の分野では、金属3Dプリンタの普及が妨げられている要因の一つとして、金属3Dプリンタによるものづくりの工程（製品設計と工作機械で加工するための制御プログラムを生成するCAD/CAE、CAM～金属3Dプリンタによる金属加工・金型製造～成形品を製造する射

出成形機）が複数社の技術・製品によって構成されているため、トラブルが生じた際に対応が困難であることがあげられます。「OPM250L」は、金属3Dプリンタによるものづくりの全工程がソディックグループの技術で完結しており、問題が生じた際はソディックグループだけで対応可能な業界初の“ワンストップ ソリューション”を実現しています。

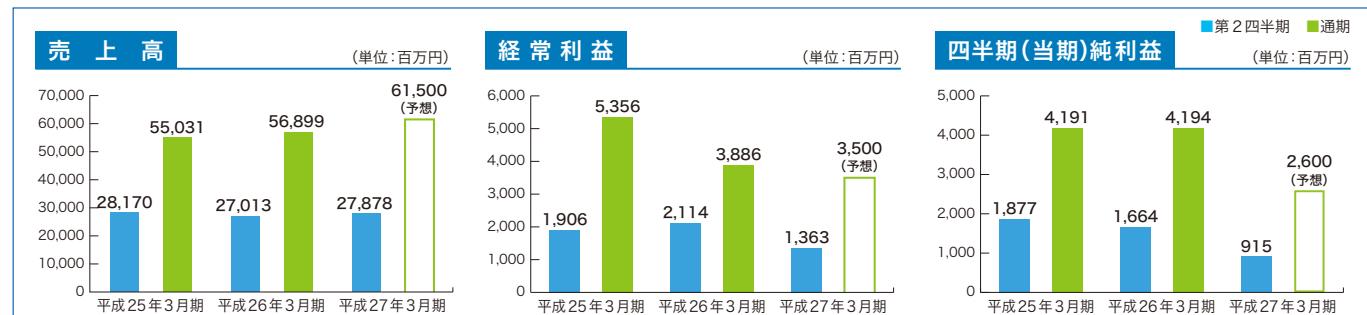
以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同四半期比8億64百万円増（前年同四半期比3.2%増）の278億78百万円となりました。利益面では、営業利益は前年同四半期比51百万円減（前年同四半期比3.5%減）の14億36百万円、経常利益は前年同四半期比7億50百万円減（前年同四半期比35.5%減）の13億63百万円、四半期純利益は前年同四半期比7億49百万円減（前年同四半期比45.0%減）の9億15百万円となりました。

通期の見通し

今後の見通しにつきましては、国内においては、アベノミクスによる景況感の改善や政府の生産性向上設備投資促進税制などを背景に、更新需要が期待されます。海外経済においても、米国の製造業は国内回帰の流れが継続し、財政問題が鎮静化した欧州地域においても、航空機関連や自動車産業から小型精密分野まで幅広い分野で順調に推移すると見られます。前期において低迷した中華圏では、本格的な需要回復には時間がかかる見込みです。

平成27年3月期の当社グループの業績は、連結売上高615億円（前期比8.1%増）、連結営業利益39億円（前期比47.1%増）、連結経常利益35億円（前期比9.9%減）、連結当期純利益26億円（前期比38.0%減）と予想しております。

連結業績ハイライト



四半期連結貸借対照表

科目	期別 前連結会計年度 平成26年3月31日 現在	当第2四半期 連結会計期間 平成26年9月30日 現在
資産の部		
流動資産	64,557	66,067
固定資産	34,218	32,949
有形固定資産	24,450	24,085
無形固定資産	4,346	4,173
投資その他の資産	5,421	4,689
資産合計	98,776	99,017
負債の部		
流動負債	29,779	30,611
固定負債	26,544	25,298
負債合計	56,324	55,909
純資産の部		
株主資本	38,673	39,192
資本金	20,775	20,775
資本剰余金	5,879	5,879
利益剰余金	13,714	14,233
自己株式	△ 1,695	△ 1,696
その他の包括利益累計額	3,714	3,868
少数株主持分	63	46
純資産合計	42,451	43,107
負債純資産合計	98,776	99,017

四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

科目	期別 前第2四半期 連結累計期間 平成25年4月1日～ 平成25年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 平成26年4月1日～ 平成26年9月30日まで
売上高	27,013	27,878
売上総利益	8,221	9,009
営業利益	1,488	1,436
経常利益	2,114	1,363
税金等調整前四半期純利益	2,128	1,326
四半期純利益	1,664	915
四半期包括利益	3,572	1,052

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科目	期別 前第2四半期 連結累計期間 平成25年4月1日～ 平成25年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 平成26年4月1日～ 平成26年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,549	2,647
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,362	444
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,014	△ 1,953
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 57	173
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,144	1,312
現金及び現金同等物の期首残高	25,514	23,647
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	1	—
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	425	—
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△ 0	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	28,085	24,959

株式情報

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	53,432,510株
株主数	24,580人

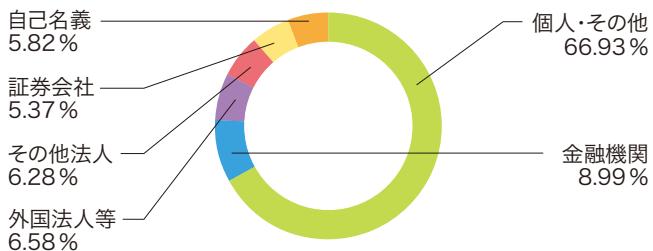
大株主

株主名	名寄株式数(株)	持株比率(%)
株式会社ソディック	3,114,163	5.82
日本証券金融株式会社	1,500,300	2.80
古川 利彦	1,195,975	2.23
有限会社ティ・エフ	1,150,000	2.15
ソディック共栄持株会	979,400	1.83
株式会社SBI証券	906,800	1.69
株式会社三井住友銀行	850,000	1.59
鈴木 正昭	742,260	1.38
株式会社北陸銀行	700,000	1.31
野田 豊	639,500	1.19

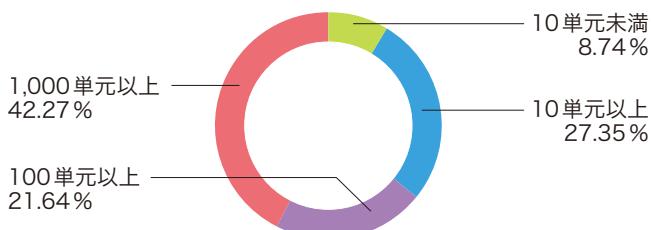
会社概要

会社名: 株式会社ソディック
 所在地: 本社 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
 〒224-8522 TEL:045-942-3111(代表)
 設立: 昭和51年8月3日
 資本金: 207億7,575万6,958円
 代表者: 金子 雄二
 従業員数: 621人(連結3,148人)
 連結子会社: 22社
 営業品目:
 形彫り放電加工機/ワイヤ放電加工機/細穴放電加工機/特殊放電加工機及び専用機(パレットチェンジャ、ロボットなど)/数値制御電源装置/放電加工機専用治具/金属3Dプリンタ/ハイスピードミーリングセンタ/ナノ加工機/精密射出成形機/工業用セラミック/産業機械向けリニアモータ/その他電気加工装置/放電加工機用ワイヤ電極線/精密金型/精密成形品/電子部材/各種ソフトウェア/食品機械/LED応用製品/委託研究及び製品開発/その他

所有者別株式分布状況



所有株式数別株式分布状況



役員

代表取締役会長 古川 利彦
 代表取締役社長 金子 雄二
 代表取締役副社長 古川 健一
 専務取締役(工作機械・産業機械販売担当) 高木 圭介
 専務取締役(放電加工機事業担当) 松井 孝
 専務取締役(射出成形機事業担当) 藤川 操
 常務取締役(食品機械(トム)事業担当) 大迫 健一
 常務取締役(マシニングセンター事業担当) 佐野 定男
 常務取締役(総合企画担当) 前島 裕史
 取締役(生産統括担当) 塚本 英樹
 社外取締役 津上 健一
 常勤監査役 楠 左衛治
 常勤監査役 保坂 昭夫
 監査役 大木 國男
 監査役 下山 和人
 監査役 奥山 富夫

株主メモ

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324(通話料無料)
特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第2部
証券コード	6143
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.sodick.co.jp/ir-f.html ※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

【ご注意】

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いができませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が特別口座管理機関となっておりますので、下記三菱UFJ信託銀行連絡先にお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行、みずほ銀行、みずほ証券の各本支店でお取り扱いいたします。

【株式に関するお手続きについて】

○証券会社等の口座に登録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324(通話料無料)
○住所・氏名等のご変更 ○配当金の受領方法の指定 ○その他のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

○特別口座に登録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取(買増)請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定(*)	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711(通話料無料) 【手続き書類のご請求方法】 ○音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479(通話料無料) ○インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufig.jp/daikou/
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324(通話料無料)

(*) 特別口座に登録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

単元未満株式の 買増・買取制度について

株主様のご所有株式のうち、1単元(100株)未満の株式につきましては、証券市場で売買することはできませんが、次のいずれかの制度をご利用いただくことが可能です。

1. 単元未満株式買増制度

ご所有の単元未満株式とあわせて1単元となる数の株式を当社からご購入いただく制度です。

2. 単元未満株式買取制度

ご所有の単元未満株式を当社が買い取らせていただく制度です。